

令和 3 年度 事業報告書

はじめに

今年度は、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策に追われる年度であった。

5月12日に国の緊急事態宣言が発せられ、一旦6月20日に解除されたが、8月20日には再度宣言が発せられ、9月30日に宣言が解除された。その間又はその後、まん延防止等重点措置が、6月21日から7月11日、8月2日から8月19日と翌年1月27日から3月6日まで適用になった。

入所サービスについては、外出禁止など徹底的な水際対策を実施・継続する一方、通所系サービスについては、サービス提供時間の短縮や提供時間帯の分散を行うなどし、事業を継続した。また、施設内においては、ソーシャルディスタンスの確保、適切な温度・湿度管理を前提にした換気、利用者及び職員のマスクの着用・手指消毒など、基本的な感染症対策を徹底した。

全国的に未曾有の感染者が発生する中、数人の利用者及び職員が、陽性者又は濃厚接触者になるなどに留まっていたが、年度末の3月14日に戸畑障害者地域活動センターで施設内クラスターが発生した。今後さらに感染症対策に努めていきます。

利用者の状況は、入所系のサービス利用者は安定していたが、通所系のサービス利用者は、一時回復傾向もあったがまだ落ち込んでいる傾向にあります。

サービスの質の向上として生活支援センターに特殊浴槽を設置し、国の「福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金」を受け、職員の処遇改善も図った。

また、戸畑障害者地域活動センターは、市の指定管理の更新を受け、来年度から5年間の管理を任されることとなった。

令和3年度決算は、事業収入が前年度比0.17%増の約4億6564万円で、事業支出が、0.32%減の約4億5836万円となった。当期の活動増減差額は約727万円の増となった。

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応

ア 新型コロナウイルス感染症に係る感染者の発生報告

①法人本部経営企画室 職員1人感染

令和3年7月24日(土)夜中に発熱、翌日PCR検査実施。その結果陽性であった。

7月26日(月)自宅待機後、ホテル療養となり、8月10日(火)職場復帰。

②生活支援センター職員 職員1人感染

令和3年7月25日(日)妻発熱(37度台)。職員自宅待機。7月28日(水)陽性判明。

7月28日(月)からホテル療養。8月12日(木)職場復帰。

③放課後等デイサービス 利用者1人感染

令和3年12月4日(土)～12月17日(金)の間、保健所の指導により11日間の休業。

利用者は特別支援学校の生徒で、学校で行われたスクリーニング検査で陽性反応。

そのため利用者8人、職員5人が濃厚接触者とされ自宅待機。陽性者は出なかった。

④放課後等デイサービス 利用者1人感染

特別支援学校で陽性者。令和4年2月8日(火)PCR検査を受け、陽性反応が出た。濃厚接触者なし。この利用者の父親が当施設の職員。PCR検査は陰性であった。

⑤生活支援センター 職員(夜勤従事職員)1人感染

令和4年2月19日(土)夜勤、21日(月)朝方発熱(38.5℃)PCR検査の結果、陽性者となり3月2日(水)まで自宅療養となった。濃厚接触者なし。

⑥生活支援センター 短期入所利用者(基礎疾患あり)1人感染

令和4年2月22日(火)夜勤従事職員に喉の痛みを訴える。簡易検査で陽性反応があったので、翌日病院でPCR検査し、入院となった。

⑦戸畑障害者地域活動センター 利用者及び職員 14人感染

令和4年3月1/13(日)～3/15(火)利用者・職員の複数名が発熱等で受診。利用者5名・職員6名が陽性。職員の内1名は無症状だが無料検査を受検し、陽性が判明。その後、就労事業利用者2名、生活介護事業利用者1名 計14名の陽性が確認された。

イ センター毎の感染防止対策**とりはた玄海園就労センター**

1日2回の検温(検温表に記載)と4回の管内消毒を実施し、利用者の健康状態を常時確認。6月～10月までの期間で市のPCR検査を全職員と希望利用者に実施した。各作業場では、スクール形式での机の配置変更とパーテーションの増設を行った。

5月12日～6月20日までの期間、緊急事態宣言が発令されたことに伴い、通勤時の混雑を避けるために、10時からの営業とした。8月20日～9月30日までの期間に再発令された際は、午前・午後の分散通所を行った。

とりはた玄海園生活支援センター

7月職員1名、2月職員1名・短期入所利用者1名がコロナ陽性となった。実際に利用者の居室待期期間を設け、濃厚接触者の発生はないが、要注意者には防護しての個室支援も実施し、感染拡大を防いだ。マスクの着用、消毒、換気、外出制限を継続し予防に努め、被害は最小限に抑えることができた。

戸畑障害者地域活動センター

基本的なコロナウイルス感染症予防対策を継続。コロナ感染症対策等について、利用者及び家族にこまめに文章等で状況を説明し、質問等に答えることで安心してセンターを利用できるように働きかけた。

感染者情報やその対応についてその都度、いっせいメールや文書等【第1～6報】で周知し、情報共有を速やかに行った。感染者発生の場合でもセンター全体の活動が中断することのないよう濃厚接触者を可能な限り出さない対策を講じ、特定に必要な記録類の整備に努めた。全職員を対象に定期的なPCR検査を実施(5月～10月)。

(2) 主な事業計画の取り組み結果（概要）

ア 経営企画室

- ・新型コロナウイルス対策として、理事会、評議員会の一部を書面決議とした。
- ・経営会議を月1回開催し、法人経営についての協議を行い、適時課題等に対応した。
- ・適正な人員配置と適正な人事評価のため、特に定期評価の際、評価者が適正に人事評価が行える日数を確保した。

イ とりはた玄海園就労センター

□堅実で効率的な経営

安定的収入の確保

- ・利用日数の増加への取り組みとして、祝日を8日間開所したことにより、延べ195人の追加利用があった。
- ・特別支援学校、精神科病院等への働きかけにより、15名が見学し、うち11名が体験利用。4名の利用に繋がった。

新規利用の流れを確立

- ・広報誌を利用した営業活動として、月6件の関係機関に配布。問い合わせや見学は増加（15件）。

各種加算取得に向けた取り組み

新型コロナウイルスの影響から、来年度の報酬は、平成30年度・令和元年度の実績に遡り算定することが可能となり、基本報酬のランクを維持できた。

就労支援の強化・定着支援事業に関する取り組み（質と実績）

就労定着支援ソフト【SPIS】の導入により利用の定着、就職支援を図れた。

生産活動における事業拡大

比較的誰でも着手できる新規作業（業務用のフライヤーに使用する油吸着シートの枚数数え）を導入した。

就労支援事業（生産活動）

収入は、約2,101万円で、前年度から約277万円の減となった。

工賃の総支給額は約934万円（前年度約950万円）。

今年度の平均工賃は月額20,409円に留まった（B型事業＋移行）。コロナ禍での作業量の減少と、在宅就労が影響した。

基本報酬は8ランク中5番目（2万－2万5千円）取得を維持。

印刷事業

官公庁発注が低迷し（予算比76.6%）、民間受注品と合わせ予算比77.2%となった。客先の要望（納期短縮）や印刷物の幅を広げるため、来年度に向けオンデマンド印刷機のリースを検討した。

簡易作業

主力の園芸用品組み立てが堅調であった。

おやつ作業

学童保育クラブの新規開拓は2件。季節限定商品も開発あり、一般個客回復傾向。

施設外作業

コロナ禍の影響はあったが、大幅な減収(予算比87%)とはならなかった。

□サービスの質の向上**精神障害者への支援充実**

臨床心理士によるSPISの活用方法の講義や事例検討会を実施した。

就労支援の充実

個々の就労ニーズの合せた職場実習先を開拓し(2件)、3人が参加した。

利用者主体の活動を支援

利用者で組織する自治会に職員がアドバイザーとして参加し、自治会が主体となって、トイレに便座除菌ディスペンサーを設置した。

工賃支給に関すること

月額平均23,219円(県に提出する工賃実績から算定)で昨年実績1,046円増。

ウ 就労定着支援**□堅実で効率的な経営****利用者の確保**

定着支援を実施している企業から2名の受入要請があった。また、法人内からの就職者3名とその受入先企業に、本事業の必要性を説明し、契約に繋がった。

□サービスの質の向上**個別支援計画の作成・充実**

月1回以上の訪問や面談を行い、経過を確認する中で、計画作成時には相談支援事業所や企業側を交えた会議を開催した上で、希望やニーズに合わせた計画を作成した。

エ とりはた玄海園 ここ Color 放課後等デイサービス**□堅実で効果的な経営****利用者の確保**

新規利用者3名を受け入れ、登録者は14名。

1日の実利用者数の平均目標であった8名を達成した。

支援実績・専門職配置に応じた報酬(加算)の取得

必要な専門職を配置(保育士)し、児童指導員等配置加算取得の維持もできた。

□サービスの質の向上**重度自閉症児支援に対する環境整備(安全で安心して過ごせる環境づくり)**

自閉症支援のアドバイザー研修を継続し、専門性や支援技術の向上を図った。

良質な支援につながる記録類の充実

『障害特性シート』の見直しを行い、支援の方向性を確定した。また『障害特性シート』は、関係機関(相談専門員や学校)との連携にも有効活用した。

専門職員の育成・研修

OJTによりチーム全体の自閉症支援技術の向上に努めた。また、「グループ別研修」で『構造化』を取り入れるにあたり、必要な記録類やツールなどの作製に取り組んだ。

オ とりはた玄海園生活支援センター**□堅実で効率的な経営****安定的な収入の確保と収入増**

入所利用者数は延14,215人、生活介護利用者数は延11,989人(前年度から入所利用者229人増、生活介護利用者603人増)。短期入所利用数は延利用者数353人(前年度から153人増)。コロナウイルスのため、緊急性に応じて受け入れた。

□サービスの質の向上**【日中活動の充実】****創作レクリエーション活動のプログラム**

北九州芸術祭に利用者9名の絵を出品し、コムシティ黒崎市民ギャラリーに展示された。その他軽スポーツやゲーム等利用者と工夫して楽しむ活動ができた。

生産活動プログラム

リサイクル作業のコンテナを施設敷地に設置し、発注元による作業持ち込みと完成品の引き取りができるようになり、納品受注の手間が不要となった。

休日余暇の状況

コロナ禍での外出制限に加え、地域行事も中止や縮小により参加ができていない。休日は、散歩やゲームの時間を取り入れ余暇の過ごし方を工夫した。

利用者サービスの向上

職員の接遇に、4件の苦情、要望があり、話し合いにより解決した。また、アンケートによる要望として、外泊や外出の希望が多く、外出については、小グループでの買い物や散歩など、随時その機会をつくりストレス軽減に努めた。

利用者の健康管理

健康診断を年2回、訪問歯科診療も週2回(木・金)実施した。機能訓練は、加算対象者を含め19名を対象に日10名程度を実施した。

食事提供サービスの向上

給食は、年度末に嗜好調査を実施し、「満足・おおむね満足」が80%であった。食料費の高騰が生じたが、誕生食や選択食を設け給食の質の確保に努めた。

行事の企画と実施

7月夏祭りは、利用者へのアンケートと飾り作成等に関わってもらった。

8月はバスハイクをデリバリー昼食と買物実習に変更し小グループで実施した。

11月は、感染予防に注意し、家族交流会を実施した。講師のピアノ演奏を加えたコーラスを披露でき、参加した11名の家族、利用者にも好評であった。

業務改善の取り組み

浴室改修工事の完了により2月、男女を1日で入浴完了できるかを施行した。職員のシフトについても効率的な配置(6交代を3交代等)を検討中である。

カ 戸畑障害者地域活動センター

□堅実で効果的な経営

安定的な人材と財政の基盤

- ・実習等の受入 相談援助実習(二次的受入含む)8人 精神看護学実習37人
介護実習2人、保育実習1人

設置目標の達成

【就労継続支援 B 型事業】

月額平均工賃額は 10,644 円。前年度より 1,868 円の増。

利用者像の変化にあわせ作業内容を整理し、価格の適正化をすすめた。新規に倉庫業(ピッキング・梱包・発送)を開始した。

【生活介護事業】

強度行動障害のある方を対象にアセスメントを取り直し、個別活動スケジュール、ツール等の作成、活動室の環境整備を進めた。

ポイント制やお仕事掲示板の活用が進み、自発的な取組みに繋げることができた。

【自立訓練事業】

通所活動と訪問支援を組み合わせる支援の充実をはかった。

【広報活動】

- ・Instagram による広報活動を令和3年9月より開始。35 件を投稿。
- 随時及び定期的(毎週金曜日)にセンターの活動や福祉の魅力を発信。
- ・ホームページデザインの見直し、掲載内の一部変更を行った。
- ・広報誌スマイルだよりを1回発行した。

収入に関すること

- 延利用者数 計画値14,386人 利用者数12,443人
(計画比では▲1,756人)

【就労継続支援 B 型事業】延利用者数7,888人(事業計画比では▲854人)

コロナ影響による利用控え新規利用の受入が進まなかったことによるもの。

【生活介護事業】延利用者数4,258人、(事業計画比では▲359人)

コロナ影響による利用控えも多い中、3月にセンター内でコロナ感染陽性者が複数でたことによる事業の一時閉鎖もあり、利用者数・収入の減につながった。

【自立訓練事業】延利用者数 297人(事業計画比では▲543人)

年度当初登録者数4人でスタートしたが、就労事業へのステップアップが1名、体調不良・長期入院等により2人が契約終了した。

管理運営体制

《指定管理者更新》

令和4年度から8年度まで、指定管理者として運営を受託することができた。

《地域活動》

浅生地区のまち美化清掃に参加して地域交流の機会とした。利用者・職員延34人が参加した。Instagram による情報発信が地域のバザー参加につながった。

平等性・安全対策・危機管理体制

《利用調整》

土日祝日については 5 人以上で開所とし、職員配置の平準化をはかった。

《個人情報の保護》

広報誌等に利用者写真を掲載する際は同意書内容と照合し、必ずチェック。

《身体拘束・虐待防止》

事故報告後、数日内にリスク分析及び対応策(支援方法等)を検討し安全対策に努めた。毎月の取り纏めと周知、3ヶ月置きに事故傾向の分析。

《危機管理体制》

消防避難訓練を6月と12月実施。避難訓練時の避難経路、避難場所を見直し訓練を行った。

《安全対策》

活動室から離れた場所へ連絡が取り合え、緊急時等の応援体制が構築できるようにインカム(トランシーバー)を 6 台導入した(生活事業)。

サービスの質の向上

利用者満足度の向上

《行事の企画》

- ・戸活まつりの代替として『夏祭り』とスポーツイベント『戸活祭』を実施した。
- ・11月にバスハイクを実施した。就労・自立事業では屋外で楽しめる「みかん狩り」を生活事業では水族館の見学を楽しんだ。
- ・就労事業では予備日のある月に、利用者主体でミニ行事を企画し、作業以外の楽しみ、活動の幅を広げる機会に繋がった(4回実施)。
- ・健康マイレージ活動の導入

利用者及び職員の健康増進を目的に、日常生活の基盤となる挨拶や手洗いなどのマナーや身だしなみ、ラジオ体操やダンスタイムへの参加を呼びかけ、誰でも楽しみながら取り組める工夫をした。

《利用者・家族交流》

文書によるお知らせ(前年度事業報告・職員紹介写真 他)配布を1回目とし、2回目は感染対策をおこない少人数による集合形式で実施した。

《給食の提供》

嗜好調査実施後、意見や要望欄に挙がったメニューについては、「リクエスト食」として献立に反映した。

《利用者満足度》

市の満足度アンケートにおいて令和 2 年度の実績は、就労 84%・生活 88%であり、目標値(就労 89%・生活 90%)を下回った。寄せられた接遇マナーに関する意見をもとに、動画視聴型のミニ研修を実施し、定期面談時に個別指導の機会をもうけ、掲示物による啓発を行った。

キ とりはた障害者相談支援センター

□堅実で効果的な経営

一定収入の確保

【新規利用者の受入】

月1～2名の新規利用者の受入を目標としていたが、新規受入は11名。

【年度当初見込件数との比較／サービス利用支援】

来年度の人員体制を踏まえて既存利用者の整理を行い、年度内に他相談支援事業所へ移行するなどした結果、見込数を下回った。

□サービスの質の向上

障害児相談支援体制の整備

関係機関からの情報収集や、法人内の放課後等デイサービス事業の動向確認を行いながら、相談支援体制の必要性についての検討を継続して行った。

医療機関との連携

医療ソーシャルワーカー等と連携し、ニーズに沿った支援体制の構築や社会資源の情報共有を行った。また、個別ケースの通院同行やカウンセリングに同席。医療機関で得られた情報を関係機関と共有した。

不足する社会資源の把握、関係機関との連携

7月まで相談支援事業所等連絡会議は実施されていなかった。その後3回の会議に参加し、必要な情報を共有する機会を得た。

多職種連携の取組

個別ケースに応じて多職種との連携を図り、情報共有のためのネットワークの構築に継続して取り組んだ。必要に応じて関係者会議を実施し、今起こっている課題の共有や、課題解決に向けて協議し、統一した支援に繋がった。

キ グループホームとりはた

□堅実で効果的な経営

利用者の確保

延利用者数は1,181名、昨年度より16人増であった。2ヶ月に1回の頻度で利用者募集を行った。2件の見学はあったが、待機者には繋がらなかった。

事業所の展開

定員増のための部屋の貸数増を家主に打診したが、現状での増床は協力できないとされた。

□サービスの質の向上

個々のニーズに沿った支援計画の策定

金銭管理や健康管理への助言が中心ではあるが、家事については、清掃や買い物支援等世話人の共同や同行支援により安定した生活を維持している。

行事、体験活動等の実施

利用者個別の誕生会、クリスマス会、新年会を実施した。

(3) 福祉事業活動について

ア 利用者数について

単位:人

		定員	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3-R2年度
就労センター	継続B	34	9,098	7,948	6,941	7,068	7,072	4
	就労移行	6	1,068	1,128	1,211	1,014	844	▲170
	就労定着	—	—	59	165	178	152	▲26
	放デイ	10	—	—	(98)	1,468	1,625	157
	計	50	10,166	9,135	8,317	9,728	9,393	▲335
生活支援センター	入所	40	14,366	14,065	13,860	13,986	14,215	229
	生活介護	40	11,666	10,952	11,160	11,386	11,989	603
	短期入所	2	622	609	619	160	353	193
	計	82	26,654	25,626	25,639	25,532	26,557	1,025
戸畑活動センター	就労移行	0	1,889	1,389	846	612	0	▲612
	継続B	33	9,129	9,055	8,946	8,343	7,888	▲455
	生活介護	18	4,640	4,487	5,038	4,103	4,258	155
	自立訓練	9	463	655	357	322	297	▲25
	計	60	16,121	15,586	15,187	13,380	12,443	▲937
グループホームと りはた	共同生活 援助	4	—	—	(515)	1,165	1,181	16

※戸畑障害者地域活動センターの定員は、令和3年度変更

イ 障害福祉サービス等収入について

障害福祉サービス等収入の推移（決算）

単位：万円

	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3-R2年度
就労センター	7,733	7,319	7,332	8,432	8,786	354
生活支援センター	18,848	18,471	19,208	19,253	20,649	1,396
戸畑活動センター	14,132	13,990	14,585	13,227	12,551	▲676
相談支援センター	536	577	567	630	712	82
グループホーム	—	—	219	473	560	87
合 計	41,249	40,357	41,911	42,015	43,258	1,243

※内部取引消去前 放課後等デイサービスは就労センターに含まれる。

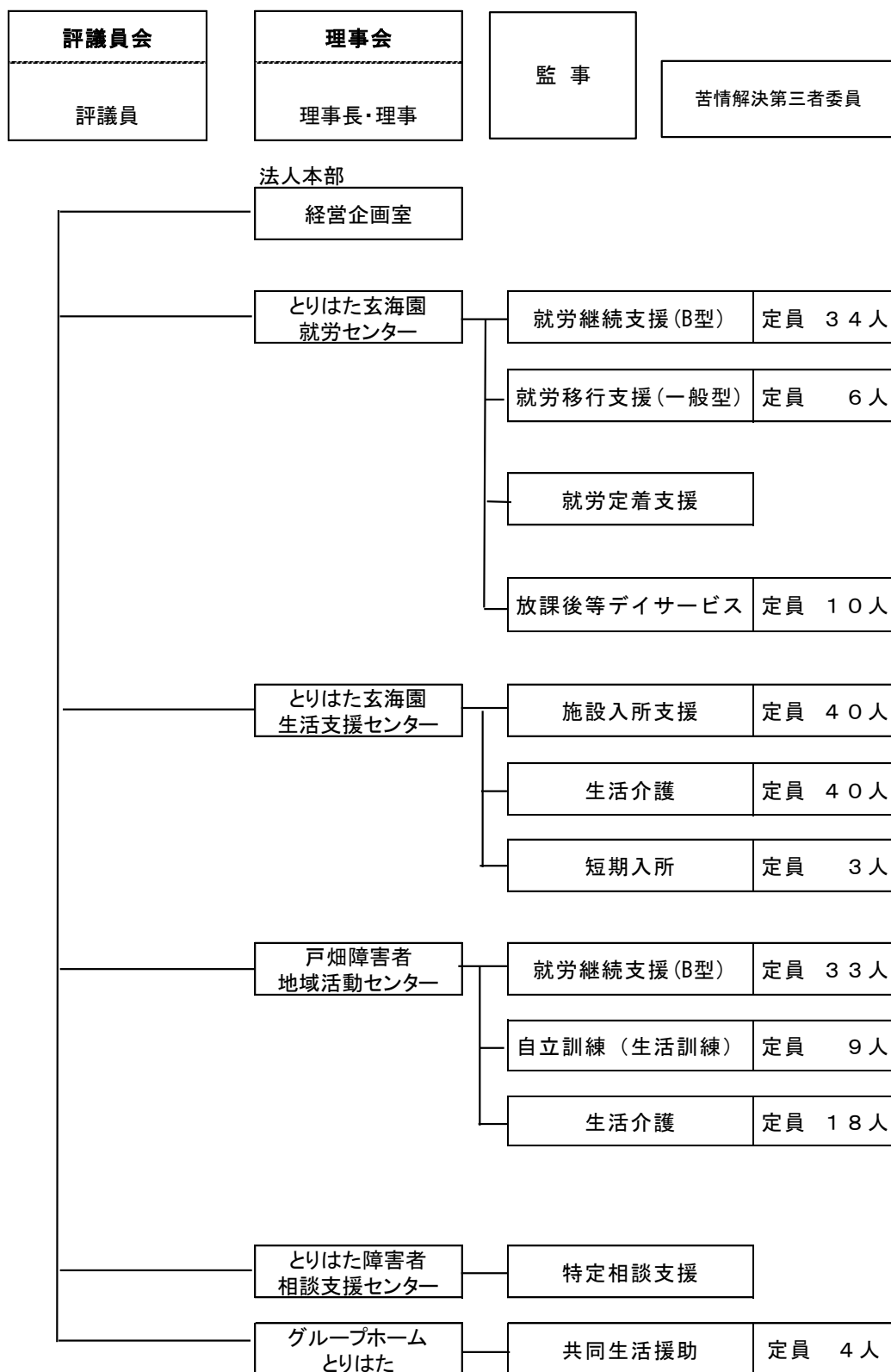
(4) 就労支援事業活動について

就労支援事業の総売り上げの推移

単位：万円

		29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R3-R2年度
就労センター	就労移行	69	168	144	133	170	37
	印刷作業	1,867	2,315	1,725	1,962	1,612	▲350
	おやつ作業	376	375	368	283	319	36
	計	2,312	2,858	2,237	2,378	2,101	▲277
生活支援センター	簡易作業	18	20	23	24	25	1
戸畑活動センター	洗濯作業	366	359	346	368	325	▲43
	よろず作業1	174	156	91	45	436	5
	よろず作業2	534	567	461	386		
	パン作業	170	169	174	93	100	7
	自立(生産)	5	5	5	4	1	▲3
	計	1,249	1,256	1,077	896	862	▲34
法人計		3,579	4,134	3,337	3,298	2,988	▲310

法人の組織



(5) 主な事務事業の成果

堅実で効率的な経営

No.	種別	事務事業	事務事業の内容	決算額
1	継続	利用工賃	(就労) 年度末調整金を支給した。月額平均工賃額は 20,409 円 (B 型事業+移行) となった。 (生活) 月額平均工賃額は 475 円。 (戸活) 月額平均工賃額 10,644 円だった。前年度より 1,868 円の増。 コロナの影響による作業量の減少もあったが、車両他経費削減に努め、かつ、新規作業の収入が今回の工賃増に繋がった。令和3年度は、夏季、冬季、年度末調整金を支給した。	(就労) 9,343 千円 (生活) 193 千円 (戸活) 4,465 千円

サービスの質の向上

No.	種別	事務事業	事務事業の内容	決算額
1	新規	戸活まつり → ① 戸活夏まつり	新規行事として「夏まつり」を開催。事業所内に本格的な出店(6店)や盆踊りを取り入れ、夏の風物詩を体感できる行事となった。参加者は、利用者43人・職員23人	(戸活) 30 千円
2	継続	戸活まつり → ② 戸活運動会	今年も『戸活まつり』に代るものとしてスポーツイベント「運動会」を実施。コロナ感染防止の対策を取り入れながら、日頃の運動不足を解消できる取り組みができた。参加者は、利用者49人・職員24人	(戸活) 30 千円
3	継続	バスハイク(外出行事)	(就労) 感染対策を十分に行い、門司港レトロ地区を散策した。 (生活) コロナ過の中、デリバリー昼食と小グループでの買い物実習に計画を変更して実施した。 (戸活) 生活介護では、近郊の水族館(下関海響館)へ。就労・自立では、ミカン狩りを実施。	(就労) 78 千円 (生活) 57 千円 (戸活) 287 千円

4	継続	親 睦 交 流 会	(就労) 午前は作業を実施。昼食に弁当を提供。午後はレクリエーションと初詣を実施。	(就労) 86 千円
5	継続	障害者スポーツ大会全国大会、ふうせんバレーボール大会等参加	(就労) 風船バレーボール大会は主催者側の判断で中止。スポーツ大会はセンターとして不参加。	
6	新規	夏まつり	(生活) ヨーヨー釣り・射的・くじ引き等のゲームの他、職員対抗腕相撲の勝敗を利用者が予想するゲームを楽しんだ。利用者、職員一体となって大好評であった。	(生活) 49 千円
7	継続	就労センター同好会支援事業	(就労) コロナ禍で外出行事は未実施。園芸・スポーツ・ストレッチクラブは年間を通して実施。縄跳び代。花壇用苗・肥料代。	(就労) 5 千円
8	継続	もちつき大会・クリスマス会	(就労) 感染対策を十分に行い、餅つきを実施。つくたての餅を利用者に提供した。 (生活) 行事食にビュッフェ形式のデザートを提供した。職員による仮装とクイズで楽しんだ。	(就労) 21 千円 (生活) 56 千円
9	継続	新年会	(生活) 行事食の提供に加え、利用者・職員合同のチームを作り、テーブルバレー大会をトーナメント形式で開催した。利用者職員共同での戦いに大いに盛り上がった。	(生活) 10 千円
10	継続	茶話会	合計4回、行事のない月に実施。簡単なゲームと季節感のある菓子と飲み物を提供。 各回、クイズやゲームを盛り込み皆で楽しんだ。	19 千円
11	継続	創レク活動費	コロナ禍で屋内活動が主とはなったが、季節を感じる花に触れる生花、人気の高いカラオケのチケットを購入等、コロナ過でも実施可能で好評な活動は継続実施した。	(生活) 146 千円
12	新規	強度行動障害の構造化	対象者の構造化に必要な備品等を購入し、体制を整えた。	(戸活) 256 千円

